

中国の記事から（畜産）

2006年7月20日号

目次

◎福建の聖農集団、鶏糞利用する発電所建設

【国際商報 2006年07月19日】

◎福建の聖農集団、鶏糞利用する発電所建設

【国際商報 2006年07月19日】

福建省の聖農集団は、鶏糞を利用する発電所建設に取り掛かった。3億5000万元を投じて建設するもので、第1期には発電ユニット2台を導入、2008年からの供用開始を計画、年間の発電量は1億6800万キロワットアワー、年間の生産額7000万元余りが見込まれている。これまで鶏糞は主に肥料の原料として処理されてきた。中国南部地区では最大規模のプロイラー加工業者である聖農集団では年間10万トン余りの鶏糞が発生、これは2010年には50万トンを超えるものとみられ、その処理をどうするかが課題となっていた。関係者らは鶏糞50万トンを利用して発電することで1億5000万元余りの経済効果があるものと予測している。

本情報は、株式会社日本能率協会総合研究所により
翻訳された中国の新聞記事をもとに、同社の許可を得て
独立行政法人農畜産業振興機構が整理したものです。